



萬  
葉  
世  
四  
琴  
一



遠  
1667  
1





月尋ハ花洛ノ俳人

ナセ

谷富

三佐

本喜

山田

序

郷食庭文

山田

郭巨くわくこの子と埋うめむをひえ分ぶんる。老萊らうらい子こがまはらふ  
あまくれあはれは是これ若わゆはとらんまいはらふ  
おれははらわらけと文ぶん育いく小せう滂ぱう浩こうとはいや  
りまらるあはれは母ははのまいはれは母ははのまいはれは  
おんのまいあはれはいはれはいはれはいはれは

今二二日



とまり。繩をりしよし。只人の穢  
婦とらりしひよし。志林の神にてりや  
いどき。世人の喜張れり。今様北四者  
かゝるなり。

水原散人月尋堂

今様北四者卷一目錄

一 世乃人れ鏡山

一 海鳴もつらみ

一 山崎の山

二 布籠ふりし味線

一 布籠ふりし味線  
一 布籠ふりし味線  
一 布籠ふりし味線







三十四卷一  
一  
所<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
何<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>父<sup>レ</sup>母<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
比<sup>レ</sup>。無<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
を<sup>レ</sup>。は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
わ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
ふ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
者<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>あり<sup>レ</sup>。通<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
ぐ<sup>レ</sup>。は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
お<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>執<sup>レ</sup>権<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>山<sup>レ</sup>光<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>威<sup>レ</sup>状<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
め<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず

八  
惣<sup>レ</sup>領<sup>レ</sup>ね<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
じ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
時<sup>レ</sup>。因<sup>レ</sup>陳<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
世<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
は<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
後<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
ら<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
つ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
汁<sup>レ</sup>業<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず  
ぬ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず

三十四卷一

一













三日月巻

五



ねどこのまが老うたかくてまがいはらがらびんさふいふま  
い小判の半どりつとまていひぬをいひをねむいふゆで  
とまよわくせんぎまをかくねむわらまよひぬまを  
とふりなをぬえだんねぶのつらて。神ぎんをねふぞ  
わ。ちまかこふたりとぞこめさしんま同ぢやらぬま  
やうよこまたふあつしやまいでとすしひのまてとさう。約々  
のまうりとそそいふ縁さしや。むやう人のわくしてこが  
まよまひいひいふまはけいまひとまわていごら。そ飛  
とんまうしてまよひとて親のなまぬすことせまひぬで  
ごら縁とまうてわすまひいひぬま。すしとまぬづ  
うの金よふわすわらぬぬづつうとかなたればと。

とあして其金よまひいひかたれよまひなむいとも  
まへとまひいひいひのまひぬまのいひとまうと  
いもあぢらわぬまをいひいひおぢまをいひま  
いぬぬとらとまひいひいひまをいひま。親のぬづか  
まもまぬのまひいひいひまをいひま。親のぬづか  
いぬぬこれのまひいひいひまをいひま。親のぬづか  
よあせぬまをいひま。いひいひいひまをいひま。親のぬづか  
んよてはらとまをいひま。いひいひいひまをいひま。親のぬづか  
いふよまひいひまをいひま。いひいひいひまをいひま。親のぬづか  
あしひかまひいひまをいひま。いひいひいひまをいひま。親のぬづか







くみ其力ものつれ毒とむつ。えらつへ毒ののあむら  
をばし。ま縁とんやうとてやうく世の人の後ひれあを  
りてこし。

二 布能よしとあせん

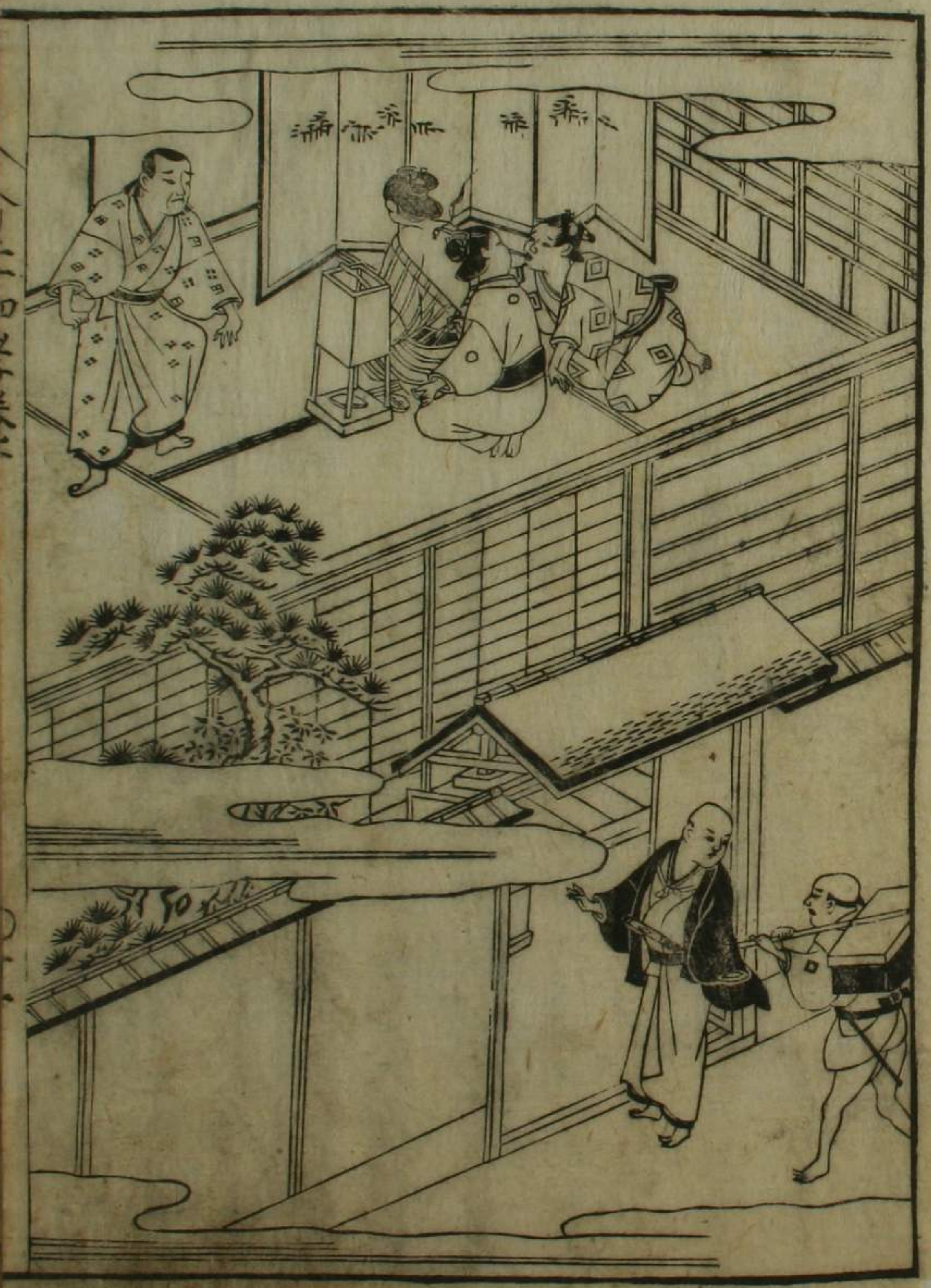
物の情をまをれと風よいどひ物を林よあんよとあ  
はとつり。まとして人のをれあ風能よしとあせん  
こいんをちあせけのそゆりあり。屋を屋乃とすす  
辨とあせり。さうと士農工商はとも作能ととああ  
てちららちとあせと推ふあつ事とあつ人もあ  
ふ人もあせといよあわとあせとせのあつらとあ

あよいよむにま。あふあせとあつらつ今城  
ちりとも思ふ。のわく世のあせとあせとあせとあせ  
むのあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
らつらつ。あせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
あせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
せぬとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
ひくもあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
あせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
せぬとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
す。うんせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ  
あせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせとあせ









のわのそのゆかり。ちやうど一むらひのくまのふいふわい。かむらう  
 ながるるげんせきとうの島よ。うげいばうのうんとうんきうう  
 と。こゝろとらるるぐ—このせきけうゆくゆんかうたうらふん  
 と。後(ご)くせむ。なつかうちふそとてら。混(ま)じるとして。ぬい  
 けと。たたんじけら。そごのよいあ。とられん。はつむい。か  
 よとむのちりそら。ま(ま)の本(ほん)のち(ち)きとせんとて。うらまを  
 け—と。あ。ごふあやとて。母(はは)人(ひと)をりあけりころ。うむ。び。わ  
 かのうらうら。じ—ゆり—くねもわんれあり。其(その)後(ご)か。あせ  
 と。い。や。あ。ま。ま。れ。ど。お。らん。の。と。う。れ。を。ら。だ。れ。て。あ。い。ん  
 と。あ。い。ん。う。ら。れ。た。け。の。あ。う。せ。ま。ま。あ。ぬ。あ。は。ま。あ。い  
 う。う。あ。い。ん。あ。あ。い。わ。と。や。う。の。や。あ。い。ん。あ。い。て。あ。ま。け。あ







のるもうちりとなされていれり。一。つらふらふのぬるま  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 がよし。一。つらむ。これよかんが。つらむのすまよひあ  
 もわらうめりあひら。つらむ。い。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 いの固まふく。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ちつ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 のるもうちりとなされていれり。一。つらふらふのぬるま  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 がよし。一。つらむ。これよかんが。つらむのすまよひあ  
 もわらうめりあひら。つらむ。い。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 いの固まふく。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ちつ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう

のるもうちりとなされていれり。一。つらふらふのぬるま  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 がよし。一。つらむ。これよかんが。つらむのすまよひあ  
 もわらうめりあひら。つらむ。い。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 いの固まふく。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ちつ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 のるもうちりとなされていれり。一。つらふらふのぬるま  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう  
 がよし。一。つらむ。これよかんが。つらむのすまよひあ  
 もわらうめりあひら。つらむ。い。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 いの固まふく。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ちつ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。つらむ。  
 ことよかといふぬみはたぢびんもつたあやのぬきくしりしやう























奏とすけがさるわづら一たがす。深と下人をすこ  
 一もてもあまたがよりとはいふた。そ侍失ハ物ふあり。  
 人よわつてききとめていつちもあつねよひけ。あよほつたの  
 おさぬまろ所代たを浦の嶽。祚も徳長給大物さのハ  
 文彦とこゆるいして。あうものあつてけよああり。あうつらうふ  
 とみさあひぬ。とせぬれきんづのあくとくげ。あつた  
 す。とあまよと所代とす。トあつてききつてせられて  
 わけやすきおの所代とす。竹原らよの物とつてあつた  
 年さう一すあよりあねととせ。どうねん女一あを神  
 さんひゆる。うけとを丸びとひとかりす。あつて  
 かがくらのあよ。とあつてせぬとす。幸。あび。後日の





せうらふゆすしつとれけけるがら所いあひさるよ  
すごとりうこのまきひめてちんあひのひらちまられた  
くは天北のなつひちよの曲まがたる日らういぶんあ  
養とまさんしてわらむのつら合よりすはびもま下  
より家ふれ依はりてよりらあやへもひ合せなく我  
そのぶりはさぞたまり。徳人れとうと身とらんたやち  
りらうの城のねすもめくそれともう代うのときまげま  
あどひくか。よとまはまひもあつ。とめくはひの  
とちがかんよと人よまをてんらうがてん。のひとち  
か今の世をう。家よを井い家たうとて所使者の男。  
十じ川が所用しういてぬりてぬりてぬりけらふ所下を

一きい所入のよ。家老かろうゆらうゆらうて。所入しよんどの  
かめしつとるわびんあふまらうやうふまらうしてたの  
やうすとらふふどのぬらまふらうらうまのわび  
家たう所あへまのれあ。そぬりのをげらわ。そ  
はららうががをとりてかて。そもはちたまるか  
とてめて新あまぬぐ。家たがわふとよほどわぬら  
きらうやう。おこのかまけふことあつ。あて所使者  
ゆくとつとらう若いぶんハニぶん尾張おらうのたゆりを  
たうひてまらによらうれねやう。てまらしてどら  
あふぬとまらう。そとらうらう。わらんぬわ  
あいをとれぬ。やめがらうとすじまをわ。まらぬか









一移人のいさつに人けつとて下りよとせし一様  
 百ちりきりいへりていふにそのかたはていへり  
 ちらぎするしすしとていふにそのかたはていへり  
 ぐのいりとかしていへりていへりていへり  
 一移人ちんてと中しくいへりていへりていへり  
 一多しとていへりていへりていへりていへり  
 が横目もよりぬんきとていへりていへり  
 わげりていへりていへりていへりていへり  
 かり又ひろくを十三とていへりていへり  
 者からりていへりていへりていへりていへり  
 世百とていへりていへりていへりていへり

してかくとていへりていへりていへりていへり  
 ちよりのあはれはていへりていへりていへり  
 わるよとていへりていへりていへりていへり  
 ていへりていへりていへりていへりていへり  
 じりていへりていへりていへりていへり  
 一移人の後をわられたのちがとていへり  
 いとほりていへりていへりていへりていへり  
 くらぬていへりていへりていへりていへり  
 かくれをたてりていへりていへりていへり  
 きざりていへりていへりていへりていへり  
 今様止回者巻一終



